

第12回 多職種勉強会

令和2年2月5日(水)開催

『シリーズ 連携がうまくいくコツ

いけない理由②』

松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成26年より勉強会を開催しています。

12回目の今回は、松阪市内にある急性期3病院における入退院連携の実態について学び、院内、院外を含めた多職種連携のあり方について考えていただく勉強会を開催したところ、在宅での医療・介護に関わる専門職 165名が参加されました。

【話題】

「3病院の入退院時連携を知る！」

済生会松阪総合病院、松阪中央総合病院、松阪市民病院
退院調整看護師および医療ソーシャルワーカーのみなさま

今回の話題は、それぞれの病院で、患者さんが入院した時、退院に向けて準備をする時など、院内連携や院外の専門職との連携をどのように行っているか、どのような課題があるかについて、パネルディスカッション方式でお話いただきました。

新規の入院患者に対する、医療以外の支援(退院に向けての相談など)の程度を確認したり、退院に向けての相談・必要な手続きの支援を行ったりしておられます。病院によっては、必要に応じて退院前や退院後に患者の住まいを訪問し、どのような退院準備や退院後のフォローが必要か、ということを検討することもあります。

また、かかりつけ医や担当の介護支援専門員との連携も重要な役割です。

救急病院でもあることから、急患をスムーズに受け入れるための努力や工夫、課題についてもお話いただきました。



今回の勉強会は、急性期病院(急性疾患または重症患者の治療を24時間体制で行なう病院のこと)からの話題提供ということで、様々な職種からの関心がいつも以上に高かったように思います。広報まつさか令和2年5月号にも関連記事が掲載される予定ですので、ご覧いただければ幸いです。

この勉強会では、毎回、医療や介護の関係職種など、様々な専門性をお持ちのみなさんにご参加いただき、異なる専門をお持ちの方々に顔見知りになっていただくことも大切な目的のひとつとして、毎回グループワークを勉強会の内容に含めています。

専門職同士が「顔の見える関係」を深めることは、療養や生活に支援が必要な方々が安心していただける地域づくりの一端であると考えています。

毎回、初対面同士は緊張感もありますが、勉強会を終える頃には新たな顔なじみができ、和気あいあいとした雰囲気に変化しています。実際の支援現場では、なかなか和気あいあい、とうわけにはいかないことの方が多いので、勉強会の場を通して、新しいネットワークを築き、現場で生かしていただけることを願っています。

今回のグループワークでは、前半の話題提供に関する感想に加えて、入退院時の連携での課題や疑問についても各グループで話し合っていただけたようです。

すぐに解決できる課題から時間をかけて啓発したり、しくみをつくる必要がある課題と様々ですが、少しでもよい方向に進むには、地域の専門職が行政や住民とともに取り組むことの大切さも感じる事ができたと思います。

(グループに)ケアマネさんがいませんでしたが、在宅サービス側のいろいろな意見、病院側の意見、どちらも聞けて視野が広がったように思います。(生活相談員)

急性期の入退院支援について、知らない事ばかりで、とても勉強になりました。今後の連携に生かしたいと思います。(医療ソーシャルワーカー)

専門職の意見を聞いて、その立場での情報ももらえて理解できる部分があった。(介護支援専門員)

短時間でいろいろな意見を検討するのは難しかった。(看護師)

身寄りのない方の支援は、入退院時にいろんな大変なことが分かった。他にも救急隊員の方が緊急搬送の際に、家族の連絡先を大変苦労していることも初めて知った。入退院連携シートが自宅があれば良いという話がありました。(薬剤師)

◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、これからもご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局：松阪市健康福祉部高齢者支援課

☎ 53-4099

FAX 26-4035

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

☎ 25-3070

FAX 25-3071